

第 11 期活動報告（概要）

1. 2014 年 12 月(於 大阪大学 豊中キャンパス)の強磁場フォーラム第 11 回総会において次期幹事が決定した。

幹事

代表 嶽山正二郎（東京大学 物性研究所）

中西良樹（岩手大学大学院 工学研究科）

赤星大介（東邦大学 理学部）

今中康貴（物質・材料研究機構）

野尻浩之（東北大学 金属材料研究所）

杉山清寛（大阪大学 先端強磁場科学研究センター）

陰山 洋（京都大学大学院 工学研究科）

小山佳一（鹿児島大学大学院 理工学研究科）

2. 学術会議マスタープランについて、2012 年 3 月に、継続計画として強磁場コラボトリーを申請し、2016 年 3 月には、内容を更新した強磁場コラボトリー2020 を申請した。

3. 物性研と阪大強磁場の強磁場コラボ体制の提言をおこない、2016 年度からの共同利用の実施に繋がった。

4. 物質・材料研究機構と東北大学の連携推進を進め、グルノーブルとの関係ワークショップなどを開催した。

5. Global High Magnetic Field Forum(HIFF)について、NHMFL からの呼びかけにより 2014 年 10 月欧米中国、日本の主な強磁場施設の代表がポツダムに集合、設立に向けた話し合を行った。その後、2015 年 7 月フランスグルノーブルで設立式、2016 年 10 月韓国ソウルにて会合を持ち、韓国強磁場計画について話し合った。現在は、代表は Boebinger, 副代表は G. Rikken と L. Li が努めており、アジア地区代表の代表あるいは副代表は中国と日本(場合によっては第三国を加えて)輪番制にすることが合意されている。また、Asian High Magnetic Field Forum を結成することが中国と日本の間で合意され、今回の総会で設立を行う予定である。

参考: HIFF は強磁場施設の連合体であり、個人加盟の学会ではない。

http://www.emfl.eu/fileadmin/emfl.eu/user_upload/Media/Newsletter/emfl_newsletter_n4_14_web.pdf

6. 人事公募、研究会情報、共同利用情報などのメールによる配信を行った。

参考 強磁場フォーラムの歴史

設立総会2002年10月9日東大物性研

第2回総会2003年6月17日東北大学金属材料研究所

第3回総会2004年6月16日物質材料研究機構

第4回総会2005年6月14日東京大学物性研究所

第5回総会2006年6月15日大阪大学

第6回総会2007年5月16日東京大学物性研究所

第7回総会2009年12月8日東北大学金属材料研究所

第8回総会2011年6月24日物質・材料研究機構

第9回総会2012年11月27日東北大学金属材料研究所

第10回総会2013年11月1日東京大学物性研究所

第11回総会2014年12月5日大阪大学

第 12 回総会 2016 年 6 月 24 日東京大学物性研究所